実施日　2020年 3月 9日

２０１９年度　学校自己評価

設置者確認 2020年 3月 13日 角田 修一 印

校務分掌	重点目標	具体的取り組み	評価委員による検討･提言など	A～C	自己評価
庶務課	事務力の強化と各職員の負担の軽減	事務職員の増加に伴い、事務室でできることを増やし現在各職員が担っている仕事を多くの職員がやれるようになることで全体の負担軽減を目指す。	･事務の仕事の中でも誰でもできるものはシステム化して明文化するとわかりやすいのではないか。 ･この規模なので事務の仕事も多く大変そうに思う。 ･小口現金の扱いについてもシステム化してもよいのではないか。	B	証明書の発行や発注などを新しい事務職員も出来るようになり、仕事の集中を分散化できた。また新規職員にも各行事の準備や賞状の準備など細やかな作業を覚えてもらい負担軽減を進めることが出来た。 移行初期段階のため、作業内容を一緒に教え確認し、終了後もミスが無いようにチェックするなどの面で時間が必要だった点が今後各職員が慣れてくることで変化していければと思う。作業量の多い賞状の準備については事務への移行も考えつつ、外注することでの負担軽減も考えていきたい。
教務課	合理的配慮の一層の推進	・合理的配慮の実践具体例の共有 ・生徒情報共有のためのデータシステムの改善 ・サテライト教室の利用方法についての再検討	･生徒数が増えサテライト教室への職員の配置が難しくなってくる一方、サテライト教室を利用させたい生徒も増えてくると思われるので、適切な利用が求められるであろう。 ･相談員さんのようなカウンセラーが常任できれば一番良いのではないか。	B	合理的配慮の推進については、半身麻痺により左手が自由にならない生徒に対して、パソコン操作を片手で行えるように機器の設定を行ったり、聴覚過敏の生徒について耳栓を使用して雑音を緩和するなど、従来に引き続き合理的配慮を進めて行くことができた。しかし情報の共有については配慮が必要な生徒を職員会議で報告するにとどまり、実践具体例の共有にまではいたらなかった。生徒情報共有データベースについては、ＯＳやExcelのバージョンアップに伴いファイルを開く際に警告メッセージがでるようになってしまった。現在はアプリケーションを先に起動することで対応しているが、根本的な解決には至っていないため、今後も検討していく。
総務課	効率が良くてミスのない仕事分担の追求	新職員も増えたので分担をしっかりとしてお互いに確認しあって県などへの提出物の期限を守っていく。	･一人で〆切を持つと忘れてしまうので〆切やtodoを共有できるシステムがあると良いのではないか。 ･コンピュータ上ではなくホワイトボードなどに各課のtodoを書いておき共有できると良い。アナログが一番ミスが無い。声に出すことによって周りも確認してくれる。	B	事務新職員２名にも総務課の仕事を割り振ったがパートタイムでの勤務だったので責任を持って業務をやりきることができず、１年を通して業務を任せることができなかった。県私学振興室への提出書類については総務部長と経理部長でコミュニケーションを取り合ってミス無く行うことができた。私学振興室からの実態調査（現地調査）でも指摘事項はなく、運営費補助金は満額でている。就学支援金事務については運用システムの変更により、事務作業が大幅に増大した。特に書類の保管規定にも変更があり、来年度以降就学支援金事務の実態調査も行われるそうなので準備していきたい。
入試課	効果的な広報活動を検討し実践する。	情報発信の時期、手段、対象、範囲等の見直しを実践する。（各地域での出張説明会、広報･広告･回覧板、子育て支援センターなど）	･知ってもらえれば選んでもらえる学校だと思うので、角田先生の講演会を外部に発信したりしてはどうか。 ･教育委員会などに講演を売り込んでおいてはどうか。 ･地域交流センターなどは安く借りられるのではないか。 ･圏外からの生徒の受け入れをふやし、県外に発信していってはどうか。 ･卒業生や卒業生の保護者の方からのアプローチが有効であるが、年代が変わってしまうと知り合いに該当者がいなくなっていく。	B	例年行っている広報活動は十分実施できた。学校説明会にも約100組の参加があり、どの説明会も学校の内容の紹介にとどまらず、不登校や発達障害への考え方や、育っていく上で大切なことを伝えるなど、講演会的要素をいれながら保護者の方に安心感を持ってもらえるような内容を届けることができた。個別相談も多かった。島実フェスタの行事ではシンポジウムを行い、在校生や卒業生のインタビューを交えながら不登校やひきこもりについて在校生や一般の方も共に学べる場を提供することができた。フェスタや、自遊祭やコンサートといった学校行事に、多くの中学生や保護者の方に参加していただけた。今後は医療機関や、各施設との連携を深めたり、新たな関係作りを広げたりして、さらに情報発信の在り方を検討していきたい。地域の施設を借りての説明会や講演会については、毎年話題にはのぼるものの、行事との兼ね合いや施設の予約が日程により都合が合わないなど実施には至らないでいる。来年度も、今までの広報活動の在り方を大切につなげつつ、新しいスタイルも検討してみたい。
進路課	環境の変化に左右されない進路決定率	専門職大学の設置、各大学の学部学科統廃合など生徒の進学先の受け入れ体制が変わっていく中で新規進学校の開拓などに力を入れたい。就職に関しても担当職員と担任の連携をうまくとってミスマッチのない継続可能な職場へ就職させていきたい。	･中学校時に不登校だったため職場体験学習を受けていない生徒が多いのではないか。長期休暇の3日間等、全員だと大変であれば希望者のみ申し込んでもどうか。 ･負担にならない程度に卒業後サポートをできたらどうか。	A	就職については好景気の影響もあり決定率は１００％であった。ただし希望業種を決定するのは７月以降の会社見学を繰り返しながら決定していく者が多く、夏休みのタイミングでインターンシップに入れる生徒は現状ではいない。来年度は就業後継続できているかどうか仕事の状況はどうかなど就職をサポートした職員で就業１年後に聞き取り調査をしていく予定。進学では県外大学希望者が減りつつある。二年次から学年部での進路説明会などにおいて不安を取り除いたり、予約奨学金や授業料減免制度の充実などを紹介していきたい。静岡産業大学情報学部が無くなって以降、静岡英和大学、山梨英和大学、静岡福祉大学などに進学先が移行しつつある。筆記試験の準備不足から不合格になる大学などもあったのでしっかりと受験対策させていきたい。
保健課	食育について	生徒でも一人で簡単にできるようなレシピやメニューなど継続してできることを紹介し、食物への意識を高め、心と体の健康増進につなげたい。	･調理実習などを利用してはどうか。 ･小規模の鍋パーティなど生徒主体で企画できてもどうか。 ･食に興味を持てるような話をしていけてもいいのではないか。 ･商業デザインや学校祭での体験も増やしていけると良い。	B	今年度はデザインに料理が出来たことにより調理法や栄養について興味を持ち調べ、調理実習を行い、身近に食育を感じられる生徒もいてよかった。今後は、全体で食育を楽しめるように広げていきたい。
	感染症について	校内での感染拡大を防ぐため、日頃から呼びかけを徹底する。	･手洗いうがいだけでなく消毒ジェルの導入も考えてはどうか。（ノロウィルスはアルコールに耐性がある）	A	SHRでの手指消毒も定着している。事務室前の小黒板を利用し、手洗い、うがい、教室の換気などを一年を通して呼びかけをすることができた。新型コロナウイルス感染拡大を受け、防災だけではなく感染予防の観点からも、本校の備蓄について見直しを行いたい。
生活環境課	職員全体の時間デザイン力の向上	・生活環境の定期点検の実施 ・中間層が指導力を発揮し、チームで仕事を円滑に進める。	･効率よくやれば終わる仕事とやればやるほど増える仕事がある。バランスをとってやっていく必要があるのではないか。	B	生活環境は常日頃から手入れし良い状態を保つことができた。しかし、定期点検を管理課と共有するのは全体で校内整備を行うときのみで、日常的に校内環境についてが話題にのぼらなかった。会議等でも、換気や空調管理、生活環境全般で何か気づいたら行動するよう呼びかけていたものの、なかなか意識が高まらなかった。中間層が声を上げて指導していくことが今後必要である。終業時間も遅くなりがちであり、チームワークを高めて仕事のバランスを常時見直したり、今後の見通しを持って仕事を進めていけるよう全体的に工夫していきたい。
管理課	職員･生徒の意識を高め日頃から生活環境の維持･改善にに目を向ける。	月に一回は課で集まり修繕箇所の確認などをしていく時間をとりたい。また生徒職員の意識を高め日頃から整理整頓を心がけられるよう声かけをしていきたい。	･誰かがやると思っていると誰もやらないので声かけをし続ける事が重要。 ･全員の意識を同じレベルまで高くするのは難しいので、みんなでやる意識を伝え続ける事が必要。	B	月に一回集まって確認をする時間が今年度はとることができなかったが、長期休み前など定期的に補修箇所の確認や修繕を行った。消耗品管理や備品のチェックなどは滞りなく行えた。ただ、ペットボトルゴミの分別が不十分であったり、一部教室やロッカーの上など乱雑になりがちなところがあったので、次年度以降声掛けをしていきたい。職員同士も声を掛け合って環境の維持向上に努めたい。